

新宮山彦ぐるーぷ第1921回

南奥駆道(玉置辻)山在峠)の交差点検巡視

◇実施日：2017年04月02日(日) 曇り一時晴後小雨

◇参加者：順峰班：沖崎吉信、豊嶋 寛、山川治雄、塩川真武、

江頭健次郎。5名。

逆峰班：川島 功、濱野兼吉、梶野照雄、山口泰宏、

大江加子子・徳子、上村洋司・和美、竹中卓治、

高階美根子、坂口雄二。11名。

金剛多和班：松本吉殖、畑林秀味。2名。 計18名。

順峰班(山在峠↓玉置辻)

例年6〜7名の参加者であるが、今年に入り山川さん、上村ご夫妻が加入された上に今回、坂口雄二(63才・宇久井)、江頭健次郎(47才・本宮町)さんから参加したい旨電話を頂き、総勢16名の大人数となった。

毎回、玉置辻↓本宮への一方通行であるが、こうなると回送者の確保は無理なので、交差登山しかない。

当日朝7時、本宮世界遺産センター資料館駐車場に16名が揃いミーティングの後、山口・川島・塩川車に乗換え、スタート地点に車を移動し、7時35分に山在峠を出発した。

初参加の江頭さんは、九州有明市の出身でIターンされ、現在本宮町に居を構えておられる。月に4〜5回玉置神社へ事務関係の仕事に出仕されている。そのご縁から南奥駆道又、我々ぐるーぷにも関心があつて初参加された様だ。山を歩くことは、あまりない様だ。

予定通り進み第二鉄塔下で初めて小休止、曇り空で展望も良くない。大黒天神岳も通過、ここまで道の荒れや倒木もない。

山川さんは、新調のチェンソー持参、塩川・江頭両君は手に鎌を持っているが出番なし。

先もきれいだらうと思つた矢先に(金剛多和手前100m位の

地点)直径約25cmの松の倒木が道を塞いでいる。さあー始めて山川さんの出番だ。チェンソーは、重量約3.5kgと小型だが、馬力強く刃もするどい、あつと云う間に切断され片付けた。



出発地点・山在峠



金剛多和手前で松倒木処理 金剛多和にて



金剛多和で10分程休憩。金剛多和の役行者石像を祀る屋根は、上切原区で修復するとの事であつたが、手が付けられていない。さあーここから五大尊岳の急登である。17〜18年ぶりの登りで、先週の前鬼・牛抱坂が自信となり、不安はなかったがやはりしんどい、最後尾でどうにか付いて行つた。江頭君は山登りが、初めての様で心配したが元気で問題ない。

10時30分、不動明王石像のあるピーク(五大尊岳北峰)に着いた。

果無山脈の全容が見える五大尊とは、五大明王の事で不動明王を中心に降三世明王、軍荼利明王、大威徳明王、金剛夜叉明王を指し、果無山脈の右から石地力山、公門の頭、カヤノダン、主峰冷水山そして安堵山と並列している様子を五大尊と呼んだとは、山彦の先輩・坪井幸生氏の説である。

五大尊の登り途中で無線を入れたら、逆峰班は現在地が大平多山分岐とのこと。あまりにも遅い何かあつたのか心配になる、五大尊岳辺りで合流し昼食するのは無理だらう。

五大尊岳から10〜15分先で大森山方面へ「オーイ」と声をかけたなら「オーイ」と返答があった。早や来たかと思ったら別グループの4人組であった。新宮市や南牟婁郡の方々で豊嶋さんも良くご存知の方で、山岳トレイルのグループであった。



倒木処理



五大尊岳・不動明王



果無の山並みを眺める

その後、11時20分頃に逆峰班と合流。水呑金剛に立寄った為、遅れたとのことであった。

順峰班は、此処で昼食。逆峰班は昼食後に五大尊岳の登りがきついため、五大尊岳で昼食すること、車の鍵を交換し別れた。



五大尊岳を越えて昼食



腐倒木処理



道標の手直し

12時15分、切畑辻そして篠尾辻を通過、ここでも修験節律根本道場設置の小さなブリキ道標を手直し(数箇所針金が木に喰い込んでいます)。今回の点検以外に第8摩・岸の宿跡の確認をテーマとしたが、五大尊岳を登りきった安堵から知らないうちに通過してしまつて残念である。

大森山へのきつい登りも何とかクリヤして、13時05分大水ノ森・三角点に着いた。ここまで来たら後は登り無し、やれやれである。その先の大森山のピー(1078m)着、此処は玉置山より2mだけ高い所だ。



大森山山頂にて



大ガレからの篠尾集落



玉置辻到着!

この頃より小雨が降つて来た。両足が強ばる心配から先を急ぎ、14時20分玉置辻に着き、宮井大橋経由の42分で本宮・世界遺産資料館駐車場に帰着した。

この点検巡視で①倒木処理:3箇所3本。②道標手直し:4枚。を行った。その他、道の崩れなど大事(おおごと)なし。

行動タイム(順峰班)

本宮・世界遺産資料館P7:10→7:25山在峠7:35→9:00金剛多和
 ↓10:30五大尊岳北峰↓11:20逆峰班と合流(昼食)↓12:15切畑
 辻↓13:05大水ノ森・三角点↓大森山(1078m)↓14:20玉置辻
 14:30→15:10本宮・世界遺産資料館P。(記:沖崎、写真:塩川)

逆峰班(玉置辻↓山在峠)

玉置山を境にして吉野から熊野に変わる。吉野権現は熊野権現となる。多分南無熊野大権現と称えるのだろう。今回は順峰班と逆峰班に分かれての交差踏査となる。私たち11名は、逆峰班で沖崎・山川車に分乗し、玉置辻から出発して山在峠を目指す。

奥駈道に入るとすぐに梅花黄蓮の白い可憐な花が迎えてくれる。森林を代表する花で、湿度が適当に保たれる林床に生え、適当な日差しも必要のため、森林荒廃や開発の影響で随分少なくなっている貴重な花である。まだ、この奥駈道の傍らには数多く見られる心が和むと共に、今年もまたこの花にあえたという安堵感で春の到来を感じた。

梅花黄蓮の小さな群落から少し進むと、奥駈道の石垣が崩れそう、杖を突っ込むと深く入っていき、中の土が流出している箇所があり、機会を見て補修の必要がありそうだが、今回は点検に留め通過する。



資料館Pでミーティング

小径倒木処理

水呑金剛分岐道標

川島・大江さん以外は、奥駈道から分かれ第九番靡「水呑宿(水呑金剛)」へ、かつてはこの「水呑宿」のルートが正式な奥駈道であったらしい。途中、トラバース道が崩れている箇所があった。

分岐から約15分で「水呑宿」に着く。「水呑宿 真済僧正遺跡」

奥駈の碑や「善女龍王」「金剛慈悲童子」などの石碑が並んでいる。周辺は平で宿舎跡があったような広い敷地跡が確認できる。石碑周辺の木の枝等の落下物を取り払いきれいにし、阪口さんの般若心経で勤行を行う。

「水呑宿」は、かつて清水に恵まれ熊野の修験者が滞在して修行した宿所。篠尾からの物資の支援・補給をうけたようだ。しかし今は清水もなく、単なる涸沢が残っているだけである。



大平多山分岐手前の腐倒木の処理前・処理後

大平多山分岐にて

道に戻り今回のコース最大の植林帯の急登で、息も絶え絶え必死で登る。大平多山への分岐手前に倒木があり、川島さんがチェーンソーで処理された。

大平多山分岐に到着。ここで「水呑宿」に行かず先行した組と合流し、まだまだ登りが続く大森山の北峰(1078m)へ。高さはこちらの方が高いが、三角点(点名:大水ノ森・1045.2m)は、低い方にある。大森山山頂で逆峰班の記念撮影。

突然トレイルランのグループ(男性3名女性1名)がやってくる。吉野から熊野本宮迄5月13日〜14日に行われるレースの試走らしい。梶野さんの知人らしく当日は応援に駆けつけるとのこと。



大森山への登り



大森山山頂・逆峰班



大水ノ森・三角点

ここから切畑辻までは急な下りである。倒木もなく、下りを傍らの木を掴みながら滑らないように気を使って下る。



旧捲道分岐(歩行不可)



切畑辻で小休止



下った所が旧捲道分岐(歩行不可)である。直ぐに碑伝が置かれている場所があり、なんでこんな所にと不思議に思ってた帰って調べると第八靡「岸の宿」である。同じ靡きでも存在感のある靡と、存在感の薄い靡があるのではと不思議に思う。

切畑辻で小休止。無線で順峰班と連絡をとると、五大尊岳を過ぎたとのこと。切畑辻を過ぎシヤクナゲの間を歩く、程なく順峰からの班と出会い、お互い置いてきた車のキーを交換し、逆峰班は五大尊岳山頂で昼食をとるため別れる。

急な岩混ざりの尾根を登ると第七番靡「五大尊岳北峰」である。

この不動明王は2005(平成17)年5月に台座を残し行方不明になり、新たに設置された石像である。狭い尾根に並んだ昼食。



両班と交差合流



五大尊岳北峰



五大尊岳北峰で昼食

五大尊岳北峰から急下降して登り返すと五大尊岳南峰(825m)である。此処から金剛多和に向けて出発。この間は一気に300m程急峻な下りが続く、金剛多和に着くと畑林秀味、松本吉殖の両氏が「役の行者石像」が安置されている石室の屋根の補修に見え、仕事を終えたばかりのようであった。

今回初めてじっくりと役行者を見つめて、この役行者は微笑んでいる。この役行者を彫った石工の方の人間像が現れているのか、凛として厳しさのない役行者もまた優しさや癒しを与えてくれる安心感がある。金剛多和は第六靡で、六堂ノ辻とも呼ばれ冥界への入り口だそうである。二人は切畑に下るとの事で、全員で記念写真を撮り別れる。



金剛多和(松本・畑林氏出迎え)にて



金剛多和の水場



シダが刈られた大黒天神岳 山在峠石祠

資料館Pに順峰班の車到着



雨がポツリポツリと落ち始めてくるが、私たちは大黒天神岳に向かう。途中奥駆道から外れ、鉄塔巡視路途中にある金剛多和の水場の確認に行く。青木・梶野さんがコンクリートで取水口を固め、簡単に水を汲むことができる。今の湧水期でも水は涸れることなく流れていた。

大黒天神岳山頂(Ⅱ△573.9m)は第五摩「大黒岳」である。しかし、山頂には碑伝が置かれているだけで、摩を象徴するものは何もない。最後の山在峠を目指して下る。

熊野川が大きく蛇行して右手に本宮町や大斎原が、左手に敷屋、篠尾が見える。小雨の降り出し雷が鳴り出し、気温も下がりはじめめるが、雨はたいしたことなく山在峠(965m)に着く。ここには宝篋印塔が建っているが摩ではない。

今回の踏査は倒木をチェーンソーで一回、あと小径木の木々をノコギリで処理したのみで、手間取ることなく順調に踏査した。上村洋司さんが剪定鋏で突き出した小枝を最後まで切り続けて下さった、結構大変だっただろう。無理をしすぎて明日の仕事は大丈夫なのかと心配するが、こんな経験も無駄ではないはずである。

今回の行程は急峻な上り下りが続く、厳しい行程であった。滑って尾てい骨を打撲した方もおられたが、概ね順調に活動を終えた。本格的な登山シーズンを迎え、行仙宿から本宮までの奥駆道は倒木等の処理を終え、崩落等の箇所もなく通る事が出来るようになった。

本宮世界遺産資料館に戻り、本日の踏査の報告を行い解散した。

行動タイム(逆峰班)

6:45本宮・世界遺産資料館 P 7:10↓7:50玉置辻 8:00↓8:25水呑金剛分岐↓8:40水呑宿↓9:00水呑金剛分岐↓9:40大平多山分岐 9:45↓10:05大森山(1078m)↓10:20大水ノ森(Ⅲ△1045.2m)↓10:50旧捲道分岐↓岸の宿跡↓篠尾辻↓11:00切畑辻 11:10↓11:20順峰班と合流↓11:45五大尊岳北峰(昼食) 12:15↓12:25五大尊岳南峰(925m)↓13:25金剛多和 13:35↓金剛多和水場往復 13:45↓14:00大黒天神岳(Ⅱ△573.9m)↓14:20尾根鉄塔↓14:50山在峠 14:55↓15:10世界遺産資料館 P 15:30(解散)。

(記：濱野、写真：川島・梶野)